

## 教員採用試験過去最高の合格者数・合格率

### ■公立学校教員採用試験

本学教育学部の令和2年3月卒業生は、公立学校教員採用試験において、過去最高の合格者数(90名)・合格率(72%)を記録しました。本学の質の高い教員養成の実現に向けた取組の効果が着実に現れています。

なお、「国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)の就職状況等について」では、本学教育学部の過去4年間(平成28年3月から平成31年3月卒業者)の正規教員就職率は常に全国4位以内に入っています。

### ・教員養成の主な取組み

国や大分県の教育課題を踏まえて、カリキュラムや授業内容・方法の見直しを図ってきました。教員採用試験合格だけでなく、合格後の教員生活をも見据え、「教師育成サポート推進室」や「就職・進路支援室」を中心に、全教員出勤態勢のもと、模擬授業や実技試験の対策など手厚い指導・支援を行っています。

## 第19回九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテストにて

### 本学学生が九州経済産業局長賞・優秀賞を受賞

九州内の専門学校、高専、短大、大学の学生・院生・研究者等を対象にしたビジネスプランを募集し表彰する「第19回九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」の最終審査が、令和元年12月24日に開催されました。

本コンテストは、九州地域の大学等に眠っているシーズの発掘と育成を図り、多くのイノベーションを生み出すことを目的に、大学生・高専生を中心にした若者が創造能力とチャレンジ精神を養うためのビジネスプランを作成し、自ら考え解決していく能力とプレゼンテーションを養成する場を提供するもので、福岡市において最終審査となる一般公開でのプレゼンテーションが行われました。今回は、応募総数55件のうち、9件がファイナリストとしてプレゼンテーションを行いました。

本学からは、経済学部経営システム学科の松岡真輝さんの「臭いを可視化して必要な情報を提供する、ワキガ総合管理アプリ『臭いの財産・臭-Bot』」、理工学部創生工学科の和田貴汰さんのスマートな空間設計を提案する「WADAIKU」の2件がファイナリストに選ばれ、ベンチャーキャピタリスト、地場大手企業のオープンイノベーション担当などを中心とする審査委員が審査を行い、松岡さんが準グランプリとなる九州経済産業局長賞を、和田さんが優秀賞を受賞するなど輝かしい成績を収めました。



## 卓球部(女子)が九州大会で「団体戦」優勝 三連覇達成

第11回九州国公立大学卓球選手権大会が、令和2年2月20・21日福岡市中央体育館で開催され、大分大学旦野原キャンパスの卓球部(女子)が、「団体戦」優勝、三連覇という素晴らしい成績をおさめました。

この大会は、九州地区の国公立の10大学が参加し、卓球技術の向上および大学間の親睦を深めることなどを目的としています。

本学の体育系サークルが、強豪ひしめく九州規模の大会で三連覇を成し遂げたことは、特筆すべき成績と言え、全国大会での活躍に向けて、さらなる健闘を期待します。



## 福祉健康科学部第1期生の資格取得、就職状況

平成28年4月に設置された福祉健康科学部は、第1回目の卒業生を送り出しました。

福祉健康科学部では、理学療法コースで理学療法士の資格を、社会福祉実践コースで社会福祉士と精神保健福祉士の資格取得が出来ます。

第1期生の国家試験合格率と就職状況については以下のとおりです。

なお、精神保健福祉士国家試験については、合格率100%を達成、全国1位となりました。(全国平均合格率は62.1%)合格率100%を達成したのは7年連続です。

### ■国家試験合格率

資格名	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士	28人	28人	100%
社会福祉士	31人	30人	96.8%
精神保健福祉士	5人	5人	100%

### ■就職状況

コース	卒業者数	就職・進学率	就職者数(割合)	内県内就職者数(割合)	進学者数(割合)
理学療法コース	28人	100%	24人(86%)	11人(46%)	4人(14%)
社会福祉実践コース	31人	100%	30人(97%)	8人(27%)	1人(3%)
心理学コース	32人	94%	19人(59%)	14人(74%)	11人(34%)
計	91人	98%	73人(80%)	33人(45%)	16人(18%)

### ■主な就職先(※50音順)

【理学療法コース】大分岡病院、大分記念病院、大分中村病院、大分リハビリテーション病院、新別府病院、別府リハビリテーションセンター等

【社会福祉実践コース】大分市役所、熊本市役所、小倉リハビリテーション病院、日田病院、福岡県庁、みえ病院、宮崎医療センター等

【心理学コース】大分県社会福祉事業団、大分県庁、大分市役所、大分大学、宮崎県警察本部等

# 大分大学同窓会連合会 機関紙 No.6

令和2年7月1日発行

[事務局]

大分大学研究推進部産学連携課内

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 TEL:097-554-7513/FAX:097-554-7740  
E-mail:dosoren@oita-u.ac.jp HP:http://www.alumni.oita-u.ac.jp/



### 【巻頭言】

#### コロナ禍に当たって



昨年、「令和」の始まりに当たり新時代への期待を込めて、この項に「どのような時代が待ち受けているのか、大いなる希望と少しばかりの不安が交錯している」と記しましたが、残念ながらその不安の方が現実のものになってしまい、複雑な気持ちがしています。日に日に緑深まり百花妍を競う時節にありながら、正体不詳の見えない相手に打ち勝つために、社会の諸方面で自重と抑制が進められ、ために混迷の様相が見え隠りする昨今ですが、少しでも早く希望の光が射してくるよう希望しながら、この災厄を乗り越えたいものです。

会員の皆様には、公私にわたって不自由な渦中をお過ごしのことと思いますが、病魔への防御を第一に、何よりも先ずご健勝に努められるよう心より祈念いたします。

このような状況下ゆえに本会では、あるいは当初計画の変更等も余儀なくされる場合もあろうかと思われまが、めげず、たゆまず任を務める所存ですので、例年に増してご協力、ご支援をお願いいたします。

同窓会連合会会長 秦 政博  
(令和2年5月1日記)

## 福蓮会メッセージ

平成28年4月に開設された福祉健康科学部は、本年3月に1期生が卒業しました。現在、医療機関、福祉施設、行政機関等の就職先や大学院等の進学先において、それぞれが新たな道での第一歩を踏み出したところです。

そして、1期生の卒業に合わせ、福祉健康科学部の同窓会「福蓮会」が発足しました。まだまだ規模は小さいですが、様々な分野で活躍する卒業生たちの交流の場として有意義なものにしていきたいと考えています。

今回、福蓮会が大分大学同窓会連合会に入会させていただくことになりました。伝統ある同窓会の諸先輩方にご指導ご鞭撻を賜り、大分大学の発展に貢献していきたいと考えています。何卒よろしくお願い申し上げます。

福蓮会会長 上杉 奈菜



## ◆ 教職大学院の教育実践研究発表会に参加して

## 豊友会

令和2年2月7日大分大学大学院教育学研究科教職開発専攻(教職大学院)の教育実践研究発表会が教育学部で行われ、その会に参加させていただきました。現職の先生方が大学院での2年間の研究の成果を発表する場です。大学関係者、教育委員会関係者、学校関係者とともに豊友会の会員も参加しました。教職実践コース2名、学校経営コース6名の発表がありました。いずれも勤務しながら理論的・実践的に研究したものであり、ご苦労も多かったと思います。教育現場における指導力や課題解決力が高められることを実感しました。

教育にも不易と流行があります。学校経営コースの発表の中に出てきた、「学校運営協議会」や「主幹教諭」などの制度は、私が現職の時代(退職して17年)にはありませんでした。また、この間に学習指導要領は2度変わりました。この発表会は、私にとって時代とともに変化してきた今の学校教育の課題に触れる有意義な場となりました。

話は変わりますが、3月8日に予定されていた「教育学部卒業生と同窓会との親睦会」は、新型コロナウイルスの関係で、中止になりました。新同窓会員となる卒業生と交流できることを毎年楽しみにしていただけに残念でした。すべての学校に一日も早く日常の教育活動が戻って来ることを願って止みません。

豊友会副会長 河室信義(昭和40年卒)

## ◆ 会報が深める会員の絆

## 四極会



四極会の活動のひとつに会報の発行がある。

本部が春と秋の2回発行するのが、その名も「四極」。A4版32ページで、本部の事業報告の他、各支部や同期会からの活動報告などに毎号30余名の会員が全国から寄稿してくれる。その他、好評の文芸欄には約20名の常連投稿者による短歌、俳句、川柳の作品が並ぶ。5,000部を発行し、全国の支部を通じて会員の手に届けられる。

本部とは別に、多くの支部が独自に会報を発行している。大分支部は「四極大分」。こちらは毎年10月にA4版24頁で2,000部を発行。5名の編集委員が時間外に集まって企画・原稿募集・校正に当たる。出稿者は約40名。

県外支部でも「東京四極だより」「関西四極会報」「ひろしま四極会たより」が発行される。その他、大学院の修了生で構成する青雲会が27ページの「青雲」を発行。

これらの会報は、2019年4月に四極会のホームページをリニューアルしたのを契機に全文をホームページで見ることができるようになった。パソコンやスマホで閲覧可能なことから、最近発行部数を減らして経費節減を図る動きも出てきた。

多数の会員が誌面に登場するこれらの会報は、会の活動を会員に知ってもらう広報機能とともに、双方向で会と会員をつなぐ大切な役割を担っている。

四極会事務局 高橋秀武

## ◆ コロナ後の世界は？

## 玉樹会

### — 新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の次に来るもの —

2020年1月早々に中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、瞬く間に世界中に広がり、パンデミックとなりました。世界での感染者は4,002万人(うち死亡者28万人)、国内で感染者15,657人(うち死亡者633人)(いずれも5月10日現在)に上っています。私は大分医科大学を卒業し現在までウイルス学を専門とし、新興・再興ウイルス感染症と人・動物・環境などの関係を研究してきました。初期には発癌性という病毒性を有するとともに、ウイルスを無症状のまま保有(キャリアー)し、感染を伝搬するという特長から新型コロナウイルスにも類似する肝炎ウイルスの研究を、次いで致死率は全てのウイルス感染症中で最高の100%ですが、充分発症予防可能な人獣共通感染症である狂犬病ウイルスの研究に従事し、そして今回の新型コロナウイルスの出現から、図らずもこのウイルスに関する仕事にも首を突っ込むことになりました。

ウイルス学の詳細な話は抜きにして、新型コロナウイルスはこれまでのウイルスの悪いところをすべて兼ね備えたようなウイルスだと感じています。まずその感染様式ですが、インフルエンザウイルスなどで知られてきた飛沫感染(咳やくしゃみ)や接触感染(飛沫の付着物から)より、はるかに感染の持続性が長いことです。また、感染者の約8割近くは軽症なもの2割程度が重症化し、致死性になる例もあることで、このウイルスがすべての人に対して強毒ではないことも判明し、さらに症状を全く出さずに感染しウイルスを他人に感染させるキャリアー状態の感染者がいる点で制御に難渋することも容易に想像されます。さらに現時点ではまだ有効な治療薬やワクチンが無いことなども、この感染症に対する恐怖感を倍増させていると思います。

そうはいつても全人類全てを滅ぼしてしまえばウイルスも生き残れません。おそらく数年程度の後には人類と共存した形で存在することになるでしょう。その時、コロナ後の世界に我々はどのように暮らしていくべきかを考える時が来ています。コロナ後の「新しい生活様式」の実践が叫ばれていますが、地球環境を破壊し、効率優先の右肩上がりこれまで社会を改めるきっかけとなっているのでしょうか?もしそうでなければ、また新たなウイルスがどこかで刃を研いで、我々人類に災禍をもたらす時が来るかもしれません。

大分大学副学長、医学部微生物学教授 西園晃  
玉樹会(医学部 第2期生1985年卒)

## ◆ 桜樹会の新しい取り組み

## 桜樹会

桜樹会は現在、約1,800人の会員がいます。会員の多くは、保健・医療・福祉・介護・教育などの分野で活動しています。新型コロナウイルスが脅威をふるう先の見えない環境の中、それぞれの立場で、国内外で昼夜を問わず活動している会員がいることを考えると、自分自身も身の引き締まる思いがあります。



この影響で、桜樹会でも毎年10月の定例総会の開催が、オンラインでの開催に変更となりました。総会のために集い、近況を報告しながらワイワイと過ごすことができないのは寂しくもあります。しかし、オンラインにすることで、遠方にいる人も参加しやすくなり、昨年までとは違う顔ぶれでの総会になり、新しい繋がりができるのではないかと考えます。新型コロナウイルスによる変更を『残念ながら』と捉えるのではなく、『新たな取り組みへの挑戦』として、前向きに考えたいと思います。

桜樹会は、今後も母校の発展に寄与するとともに、会員が互いに研鑽できるよう、例えば、この混乱が収束した後に、それぞれの活動や体験談を共有できる場を設けることができないか模索していきます。

桜樹会理事 佐藤 紀恵

## ◆ コロナ禍での同窓会の進化について

## 翔工会

卒業後助手として大分大学工学部に残り現在に至っております。本年(令和2年)の新型コロナウイルスの影響は非常に大きく、大学内ではオンライン授業やオンライン実験の資料作りなどで慌ただしい日々を送っています。これまで普通に出来ていたことができなくなり、考え方や行動を変えていかないとまうまいかと思いますが、このような機会がなければオンライン授業用のソフトなどを使う経験はできなかったのではないかと思います。



期末試験ができるかどうか不明ですが、学生の理解度の確認と検証は今後の課題です。パソコンはもっていてもスマホで講義を受けたり、大学から分配されたアドレスのウェブメールは見ない学生も多く、まだ一度しか会ったことのない新入生に対してはSNSを使つての連絡体制なども構築しています。セキュリティでは不安がありますが、同窓会の在り方や活動も、グローバルなネット社会においては、SNSなどを利用して進化していく必要があるのかもしれないと思います。2022年に、工学部(理工学部)は50周年を迎えます。新たな提案ができるように努力したいと思います。(写真は令和元年度評議員会)

翔工会副会長 戸高 孝

## ◆ 小さな同窓会

## 九峰会

本同窓会は大分大学に福祉社会科学研究科が設立されて2年後に、第1期生の修了と同時に組織されて現在に至っています。現在までに100余名が研究科を修了している規模の小さな同窓会です。

本会の同窓生は福祉や医療分野において、主にソーシャルワーカーとして活躍していますが、社会福祉施設経営者として活躍している方もいます。

さらに本同窓会の特色としては、社会福祉現場で培った経験と研究科で学んだ理論等を生かして、大学等の教育機関で後進の育成に携わっている方も多いということです。

専門職ソーシャルワーカーとして高度の知識を持って日々の利用者支援に取り組みたいという熱意ある同窓生は福祉現場や行政でのアドミニストレーションを行う者、そして指導者等それぞれの分野において活動しています。

九峰会会長 安東 千秋

### 卒業生(学部卒業生)調査へのご協力をお願い

この度、平成17年・22年・27年の3月に大分大学の各学部を卒業された皆様について、大学入学時、在学時及び学部卒業後の状況をお伺いし、本学における教育の成果を測定するアンケート調査を実施することになりました。この調査は、調査結果から得られた卒業生の皆様のご意見を、教育の質の改善・向上に役立てることを目的としております。

つきましては、趣旨をご理解いただき、調査へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

なお、詳細につきましては、本誌に同封しております「卒業生(学部卒業生)調査へのご協力をお願い」をご一読くださいますようお願いいたします。

お問合せ窓口 大分大学高等教育開発センター教学IR担当(kyougaku-ir@oita-u.ac.jp)